

# 万言だより

MA GECHI NEWS

第33号 令和3年(2021)年10月

## 石村喜英先生の瓦塔研究

館長 時枝 務

瓦塔には長い研究史があり、なかでも忘れてならないのが石村喜英先生の研究であるが、近年先生の研究に触れない研究がみられるので、注意を喚起すべくあらためて先生の研究を振り返ってみたい。

石村喜英先生は、大正3年(1914)12月19日に現在の群馬県邑楽町に生まれ、昭和17年(1942)に大正大学専門部仏教科を卒業し、東京都東村山市光明院の住職となった。その後、史学科に編入し、昭和20年(1945)に再度卒業した。同年に私立明倫高等女学校教諭となったが、昭和22年(1947)に都立竹早高等学校教諭に転じ、昭和51年(1976)に退職するまで在職した。昭和53年(1978)から立正大学文学部非常勤講師として出講され、筆者も声咳に接したが、平成6年(1994)5月15日に79歳で亡くなられた。

石村先生の研究分野は仏教考古学で、とくに古代寺院の瓦・文字瓦や後述する瓦塔、中世の板碑や梵字を熱心に研究されたが、その成果は『武蔵国分寺の研究』(1966年)・『仏教考古学研究』(1993年)などとして公刊されている。

瓦塔に関しては、多くの事例報告・資料紹介のほか、2本の概説をまとめている。1本は『新版考古学講座』8特論(上)に取められた「瓦塔と泥塔」(1971年、雄山閣出版)、もう1本は『新版仏教考古学講座』第3巻塔・塔婆に取められた「瓦塔」(1976年、雄山閣出版)である。前者は、前半で瓦塔、後半で泥塔を概説するものであるのに対し、後者は瓦塔の専論である。当然、後者のほうが石村先生の考えを直接に示していると思われるので、ここでは後者の内容を紹介しておこう。

石村先生は、まず「一、瓦塔の名称と概念」で瓦塔を規定し、「二、瓦塔研究小史」で研究史を振り返り、「三、瓦塔の性格」で造立の意趣、構造と特徴、設立の年代、受容層の動向などを論じる。さらに、「四、瓦塔の分布」で分布状況や系譜関係について考察し、瓦塔の全体像を示すことを試みている。

興味深いのは、造立の意趣として衆縁勸募説・造塔信仰説・塔婆代用説・墳墓標識説を掲げ、墳墓標識説の蓋然性の高さを強調していることである。しかし、その可能性は今日からみると低いと思われ、むしろ塔婆としての信仰のあり方こそが注目されるのである。

そうした限界があるにもかかわらず、編年に特化した今日の瓦塔研究にはない研究の可能性を、石村先生の研究に見出すことができることは再評価されねばならない。

## NEWS

## 企画展「瓦塔と瓦堂」開催のお知らせ

会 期：令和3年12月2日(木)  
 ～令和4年1月28日(金)  
 開室時間：10:00～16:00  
 休 館 日：火曜日、土日祝日ほか  
 1月7日(金)、14日(金)  
 12月24日(金)～1月4日(火)  
 冬期休館  
 ＊詳細はホームページにてご確認ください。

第15回企画展「瓦塔と瓦堂」を開催します。

瓦塔とは、奈良時代から平安時代に造られた素焼きの塔です。五重塔に復元されたものが多く、七重塔も出土しています。細部の意匠などから木造塔を模したとされています。瓦堂は、瓦塔と対となる場合が多く、金堂などの堂宇を表すと考えられます。出土状況から、お堂の中に納められていたと考えられる例がありますが、用途については解明されていません。

瓦塔の出土例は全国で約200点とされ、なかでも武蔵には数多くの出土例が知られています。

今回は、立正大学で所蔵している資料のほか、熊谷を中心とした周辺地域の瓦塔・瓦堂と遺跡を紹介します。

## ◆記念講演会◆

目 時：12月11日(土) 13:30～16:00  
 博物館は閉館します。

会 場：立正大学熊谷キャンパス  
 ゲートプラザ1101教室

講 師：○立正の考古学  
 池上 悟先生 立正大学名誉教授  
 ○古代社会の神と仏

井上 高明先生 立正大学非常勤講師  
 お申込：ファックスまたはEmailにてお申し込み  
 ください。

fax : 048-536-6170

Email : useum@ris.ac.jp

\*新型コロナウイルス感染症の状況により、中止または  
 オンライン開催となる場合があります。

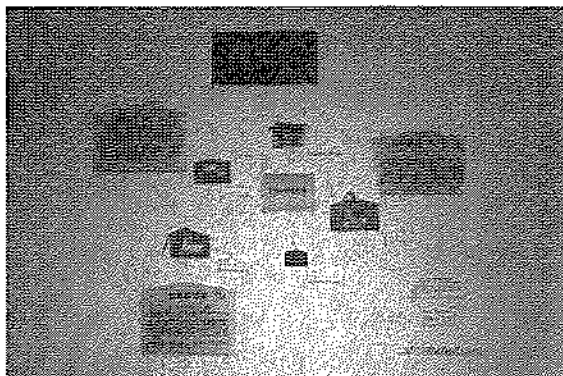
## 【主な展示資料】

瓦塔片 幡羅官衙遺跡群 (熊谷市教育委員会)  
 瓦塔片 寺内廃寺跡 (熊谷市教育委員会)  
 瓦塔片 鳩山窯跡群柳原A地区 (鳩山町教育委員会)  
 瓦塔片 新沼窯跡 (立正大学博物館蔵)  
 瓦塔片 虫草山窯跡 (立正大学博物館蔵)  
 瓦堂 細田遺跡: 桐生市 (立正大学博物館蔵)

## ◆実習展示

今年度の博物館館務実習で扱った絵馬を展示しました。6人の実習生がA班とB班に分かれそれぞれ展示構成、解説文、キャプション、デザインを考え展示しました。

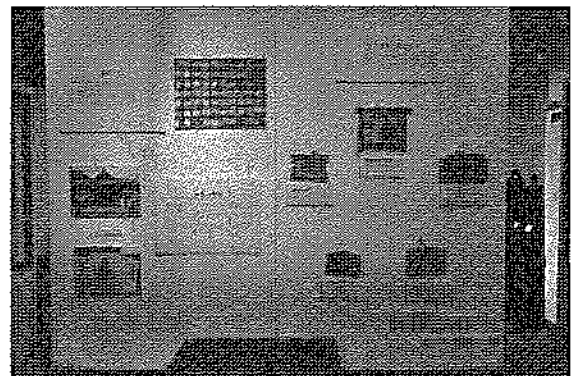
A班は、視覚障害者にも見やすいように色を工夫するとともに、親しみやすいよう絵馬形の解説を作成しました。



A班による絵馬の展示

B班は、野外調査を行った文殊寺での絵馬の奉納状況などの写真を使い、絵馬の意味や信仰の様子を説明しています。

展示した絵馬は、初代館長の坂詰秀一先生が学会や視察などの折、記念に買い求めた絵馬です。平成23年に博物館に寄贈していただきました。



B班による絵馬の展示

## 特別展紹介

### 立正大学ロータスギャラリー特別展示室 開室記念特別展 「立正大学海外仏跡調査展」

立正大学ロータスギャラリー特別展示室

小林 信子

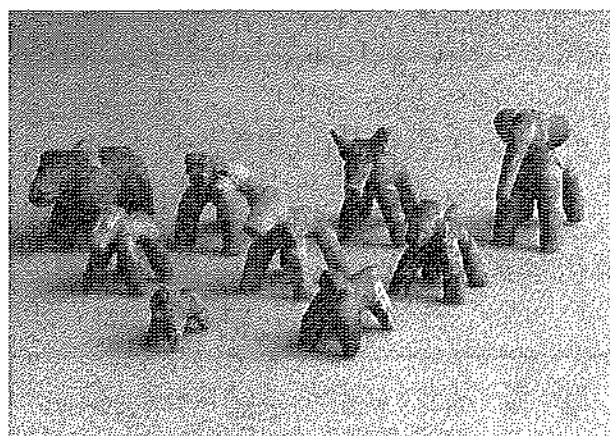
会 期：令和3年12月7日(火)  
～令和4年6月29日(水)  
開 室 日：火、水、金、土  
開室時間：10:00～16:30(入室16:00まで)  
アクセス：JR大崎駅・五反田駅から徒歩5分、  
大崎広小路駅から徒歩1分  
Pなし  
電 話：03-3492-6616  
U R L：https://www.ris.ac.jp/lotusgallery/  
図 録：あり 入室無料

令和4年に開校150年を迎える本校のあらたな「顔」として、今年4月、品川キャンパスに「150周年記念館（13号館）」が誕生しました。

この記念館には教室や学際的研究スペース、イベントホールのほか、本学150年の歴史、そして大学の現在と未来の姿を展示で紹介するロータスギャラリーが開設され、さらに12月7日(火)には「立正大学ロータスギャラリー特別展示室」を開室します。この展示室では、本学で蒐集・所蔵された仏教・歴史さらには考古学資料に関する、多彩かつ貴重な資料を公開します。

また開室日より、開室記念特別展「立正大学海外仏跡調査展」を開催します。

本学における海外仏跡調査は100年以上の歴史を有します。そのはじまりは大正4（1915）年、日蓮宗のインド留学生として梵文の研修と仏跡の探究を目的として渡印した仏教学者・岡教達(おかきょうすい)（立正大学教授）による、釈迦出家の故城・カピラ城についての研究にまで遡ります。その後は仏教学部の中村瑞隆先生のインド留学を契機に、仏教・考古・地理の各学科教員による「立正大学インド・ネパール仏教遺跡調査隊」が結成され、昭和42～52（1967～77）年の10年にわたり、カピラ城を求めて、ネパールのティラウラコット遺跡の発掘調査が行われました。



テラコッタ（動物）

調査の結果、遺跡は釈迦が存命していたとされている、マウリヤ期(紀元前4世紀)～クシャーナ期(紀元後3世紀中葉)にまで遡ることが想定され、遺跡がカピラ城跡である蓋然性が高まりました。調査についても、日本・ネパール両国の新聞各紙で報道され、日本では展覧会が開催されるなど、当時大きな注目を集めました。

また近年では、本学の学際的な研究推進事業として「立正大学ウズベキスタン学術交流プロジェクト」が挙げられます。このプロジェクトでは、ウズベキスタンの研究者と共同で、当地に残る古代仏教遺跡、カラ・テベ遺跡とズルマラ仏塔の歴史学的・地理学的調査、地質学的調査をおこない、インドから日本に至る、ユーラシア大陸における仏教の伝播過程とそれに関わる歴史の一端を明らかにしました。

これらの調査での出土品、特にティラウラコット遺跡で出土した鉢や壺といった土器や、玉類、青銅製品、コインなどの出土品はネパール政府より本学へ寄贈され、現在は貴重な学術コレクションとして立正大学博物館に収蔵されています。これらの資料は立正大学博物館で常設展示されているほか、平成27年度の第10回企画展「立正大学の海外佛跡調査－ティラウラ・コットからカラ・テベへ－」では、品川キャンパスでもその一部が展示されました。

今回の特別展では、岡教達の研究からティラウラコット遺跡の発掘調査、そしてウズベキスタン学術交流プロジェクトの成果に至る、立正大学の海外仏跡調査の足跡をたどり、釈迦出家の地の比定から、仏教の伝播過程の一端について、これまでに発見・蒐集されてきた貴重な資料を展示、またパネルで調査の過程などをご紹介します。展示資料は100点を超えますので、この機会にぜひご覧ください。

## 熊谷市立熊谷図書館 企画展

「～くまがや発掘60周年～  
熊谷を彩る発掘出土品展」

熊谷市立熊谷図書館

学芸員 蔵持 俊輔

会 期：令和3年10月23日(土)～11月28日(日)  
 休館日：毎週月曜日、11月4日(木)、11月  
 5日(金)、11月24日(水)  
 場 所：熊谷市桜木町二丁目33番地2  
 熊谷市立熊谷図書館 3F 美術展示室  
 時 間：9:00～17:00  
 入館料：無料  
 アクセス：JR熊谷駅南口より徒歩5分 Pあり

## 熊谷市立熊谷図書館について

熊谷市立熊谷図書館美術・郷土資料展示室は、熊谷市立文化センターの3階に所在します。昭和54年の開館以来、郷土熊谷をメインテーマに、歴史・民俗・文化・芸術・自然科学などの各分野を採り上げた企画展を年に4回行っています。また、原始古代から現代までの、熊谷のトピックをまとめた常設展示と、館蔵品を公開する年4回のミニ企画展も併せて行っています。

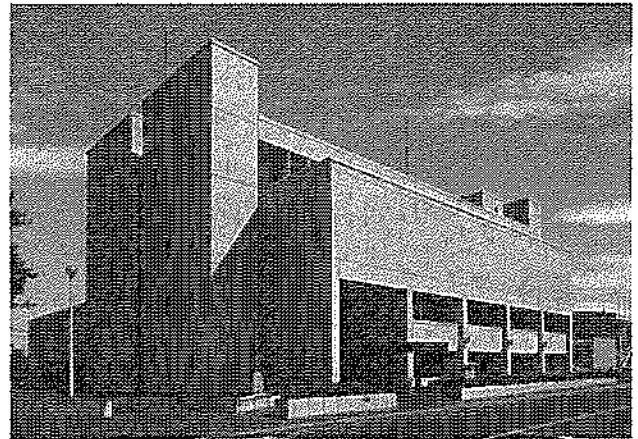
当館は熊谷ゆかりの美術・歴史・民俗資料6,500点以上を収集・保管、企画展示等で活用しているほか、郷土図書館の刊行、各種講座や講演会などの教育普及活動、子ども教室事業の開催、文化・芸術系クラブの支援など、文化の発信基地としての役割を担っています。

また、紺野英二先生の御依頼で、昨年度より立正大学博物館学芸員課程の見学実習の受入れ、今年度は見学実習に加えて学芸員実習の受入れを予定するなど、立正大学との連携を深めています。

## 企画展・熊谷を彩る発掘出土品展について

今秋の企画展は、文化財保護法制定60年を記念し、「～くまがや発掘60周年～熊谷を彩る発掘出土品展」と題してこれまでの数々の発掘調査の成果を披露するものです。

熊谷市域での発掘調査は、概ね年間10件程度実施



熊谷市立文化センター

され、近年多大な成果が挙がっています。毎年行われる埼玉県発掘調査報告会では、10年以上連続して市内の発掘調査が採り上げられるなど注目を集め続けています。また、西別府祭祀遺跡、西別府廃寺、西別府遺跡について確認調査を進めた結果、市内2件目の国指定史跡『幡羅官衙遺跡群』として平成30年に指定され、遺跡の保護も進んでいます。

展示は旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世、特集の7つのコーナーに分け、立正大学博物館、熊谷市立江南文化財センター、埼玉県文化財収蔵施設、埼玉県立さきたま史跡の博物館、東京国立博物館の所蔵品及び当館の館蔵品を約550点展示する予定です。

展示品には県指定・市指定の歴史的価値が高い考古資料も多数展示し、なかでも目玉としては、国重文「短甲武人埴輪」、「馬形埴輪」が挙げられます。このほか各時代の名品として、旧石器時代は熊谷市最古の遺物・鹿島遺跡の石器群、縄文時代は美と技術が詰まった耳飾と土偶、弥生時代は石戈と土偶形容器、古墳時代は全国的に著名な形象埴輪「踊る人々」(レプリカ)と水辺の祭祀に係る諏訪木遺跡出土遺物、奈良・平安時代は幡羅官衙遺跡群に係る石製模造品と古代瓦・瓦塔と各地域の拠点集落から烙印、鉄製鋌、黒漆塗壺鏡(レプリカ)、緑釉陶器などに加えて、県内で最多の墨書土器、中世は埋めた形状を保った埋蔵銭、希少な中世瓦窯出土の中世瓦、特集では渡辺華山の「訪蹟録」を展示します。極一部のご紹介ですが、市内出土の名品が大量かつ一堂に集まる絶好の機会となっています。この機会にぜひお越しください。

## 鹿島遺跡について

立正大学熊谷キャンパスは、その全てが遺跡の範囲で、合併前の旧熊谷市域が下原遺跡、旧江南町域が鹿島遺跡となっています。

今回展示する資料は、大学構内のユニテンス建設工事の前に実施された発掘調査（X地点）によるものです。出土した石器群は、黒曜石製の先端の尖っ

たナイフ形石器2、頁岩製ナイフ形石器1、楔形石器1、破片多数で構成されており、大形ナイフ形石器に楔形石器を伴う段階の資料であると位置づけられています。この石器群の出土は、熊谷市内に人類が出現した最古の例として重要な成果です。

## ◆記念講演会◆

会場：熊谷市立熊谷図書館 4 階第 1 講座室

## ①熊谷市教育委員会による熊谷市内の発掘調査

開催日：10月26日(火)

時間：13:30～15:00

講師：吉野 健氏

(熊谷市教委社会教育課担当副参事)

## ③立正大学による熊谷市内の発掘調査

開催日：11月9日(火)

時間：13:30～15:00

講師：池上 悟先生(立正大学名誉教授)

## ②熊谷市の弥生時代

開催日：11月2日(火)

時間：13:30～15:00

講師：松田 哲氏

(熊谷市教委社会教育課文化財保護係長)

## ④埼玉県埋蔵文化財調査事業団による熊谷市内の発掘調査

開催日：11月16日(火)

時間：13:30～15:00

講師：田中 広明先生

(埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査部長)

## ◆館務実習

今年度も博物館学芸員資格取得のための館務実習生を受け入れました。実習生は、文学部史学科2名、哲学科1名、仏教学部仏教学科1名、心理学部臨床心理学科1名の計6名でした。

実習期間：9月1日(水)～8日(水)(延べ6日間)



令和3年度実習生

○1日目 9月1日(水)

足立学芸員

- ・実習ガイダンス
- ・立正大学博物館の概要
- ・資料整理の実習

博物館所蔵の絵馬の資料整理を行いました。所定の絵馬調査カードに必要事項を記入し、絵馬の両面の写真を撮影、カードに貼りました。

○2日目 9月2日(木) 石山 秀和先生

- ・古文書の取扱いと資料整理について

近世文書を使い、古文書の取扱い方と古文書カード作成により、資料整理の実習を行いました。

○3日目 9月3日(金) 時枝 務 館長

- ・博物館学芸員の職務と心構えについて
- ・野外実習 文殊寺の見学 足立学芸員
- ・資料整理の実習

○4日目 9月6日(月) 井上 尚明先生

- ・文化史と博物館展示についての講義
- ・資料の取り扱い及び梱包についての実習

考古資料を使って、資料の取扱い、検品調書の書き方、梱包方法などの実習を行いました。

○5日目 9月7日(火) 井上 尚明先生

- ・展示解説・リーフレット等の作成実習

展示内容について話し合いながら、パソコンを使っ

て展示解説、キャプションなどを作成しました。

○6日目 9月8日(水) 足立学芸員

・資料展示実習

A,B班に分かれ、第1展示室のパネルと壁面に絵馬の展示を行いました。各班でリーフレットも作成し、展示しました。

### 実習生の感想レポート

#### 博物館館務実習を経験して

文学部史学科 加藤 遥香

博物館実習を経験していく中で感じたことは、学芸員の多岐にわたる仕事内容と膨大な作業量でした。現在では梱包作業は専門業者が行うことが多いという話も聞きましたが、それでも、資料の調査・研究、借りる際に行う手続きや挨拶、展示のキャプションやリーフレットづくりなど、様々なことを一手に引き受けているということを実習で体験することができました。

今回の実習を経て、面白くて勉強になり、気軽に立ち寄れる博物館では多くの人に関わり、長い時間が費やされていると感じ、自分が学芸員になった際には努力を惜しまずに関わっていきたく考えました。

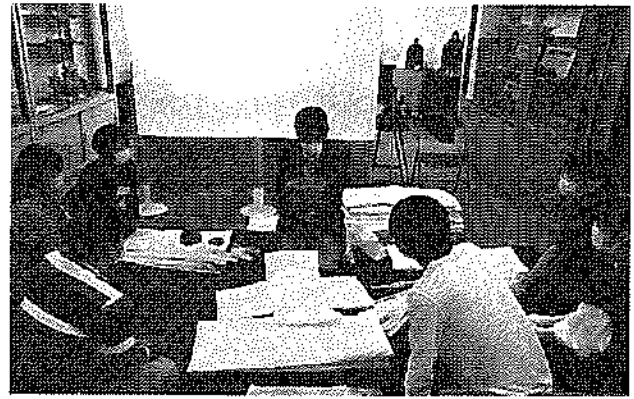
#### 博物館実習で学んだこと

心理学部臨床心理学科 古川 夏生

今まで博物館学芸員課程を3年間学んできました。自分が普段学んでいる学問分野と異なり、全てが新しい知識で分からないことだらけの勉強でした。そんな中で昨年は見学実習を行い、自分が学んできたことがどのように活かされているのかを学びました。

そして今回の館務実習で、これまで学んできたもの、見てきたものを実際に行うことになりました。学んできただけでは分からなかった苦労や、来館者として見に行くだけでは分からなかった多くのことが一つ一つの細かいところまで工夫されていることがわかりました。

第一に資料と来館者のことを考え、どうしたら見やすくわかりやすい展示になるのか、実際にやってみなければ分からなかった事だと思いました。展示を自分たちで作る時には対象を定め、カラーバリア



考古資料の梱包実習

フリーに対応するよう心がけるなどどんな人にも見やすい展示を意識し、自分たちで展示を作り出す楽しさ、難しさを体験しました。また限られた時間の中でどれだけのものを作れるかというのも大事なところだと思います。たった6日という本当に短い時間ではありましたが、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。この経験を今後活かしていきたいと思います。

#### 実習で学んだこと

文学部史学科 青木 勇大

館務実習は私に様々な発見を与えてくれた。まずは館の資料の置き方については、時代別で分け、徐々に古くあるいはその逆、目玉となる資料を最初に置くなど、館の考えによってさまざまであることを学んだ。その中で来館者に気づかれないように物を配置し、道順通りに展示物を見られるように工夫されていた。また、見えない部分の仕事としては、展示ケースの温湿度管理は勿論、資料を借りる際は細かなスケッチをし、どのような部分が壊れそうで、どのように運ばばいいのかなどを考えることが必要であるというのは驚きであった。単に梱包する際、資料に目を通しておけばいいのかなと考えていた私にとって、甘い考えであったと気付かされた。梱包を行う梱包材を作る作業では、関東と関西で方法が異なり、何を包むことが多いかで違いが出てくることを学んだ。また、仏像を包む際は、魂抜きを行い信仰とは関係のない状態にすることや、24時間ルールを行い、周りの環境に慣らしてから開封するなど細かな作業でありながら、絶対に必要な手順があることも学んだ。



展示に関しては、企画展の準備期間がいかに大変かを気づかされた。1年から最長で7年ほど時間をかけ、様々な資料を見に行き、スケッチをとり、キャプションも30枚以上を作り上げるなど、私が何気なく訪れる企画展が学芸員の力の見せ所であるのだなと感じた。

これらを踏まえ、最終日に絵馬を展示した際に、空間の重要について学んだ。私たちは、展示物を見やすく、親しみやすいことを心がけたが、資料が中央に寄りすぎていてどこを集中してみてもいいかわからないと指摘され、展示の基本的な部分が欠けていたのかなと感じた。それを一瞬で見抜かれるほどの観察眼を持つ学芸員は本当にかっこいいと感じた。

古文書に関しては、一見難しいものの、少し前の日本人が確かに使っていた文字であるという心構えを持って挑むと読みやすいと感じた。また、考古資料に関しても、状態や形をしっかりと観察することが重要であると思った。これらのほかにも、文化財や博物館の意義も学ぶことができ、この実習で、自分が学芸員になるうえでの必要な情報を得ることができた。これらの経験を踏まえ、これからも立派な学芸員になるための努力をしていきたい。

\*実習生3名のレポートを掲載しました。他の3名のレポートは次号に掲載します。

### 資料活用

#### ◆江戸東京博物館

特別展「縄文2021—東京に生きた縄文人—」

貸出資料：吉田格コレクション 硬玉大珠（多喜窪遺跡：縄文時代）

展示期間：10月9日（土）～12月5日（日）

#### ◆横浜ユーラシア文化館

「北の海の狩人—古代オホーツク文化」展

・久保常晴氏収集・樺太出土資料

展示期間：10月16日（土）～12月26日（日）

#### ◆熊谷市立熊谷図書館

貸出資料：鹿嶋遺跡 旧石器 縄文土器

展示期間：10月23日（土）～11月28日（日）

#### ◆千葉県制 100周年記念「千葉県内出土考古資料 優品展」

貸出資料：吉田格コレクション 壺形土器（新田山遺跡：弥生時代中期） 骨角器（轅橋貝塚：縄文時代）

##### ①千葉県立郷土博物館

展示期間：11月17日（水）～令和4年1月23日（日）

##### ②千葉県埋蔵文化財調査センター

展示期間：令和4年2月3日（木）～3月10日（木）

#### ◆立正大学ロータスギャラリー特別展示室

貸出資料：ティラウラコット遺跡出土資料ほか

展示期間：12月7日（火）～令和4年6月29日（水）

### 刊行物

令和3年3月から9月までに下記の刊行物を発行しました。

館蔵資料「基礎文献」叢刊 第9輯

『吉田格コレクション

城ノ台北貝塚・子母口貝塚考古資料』

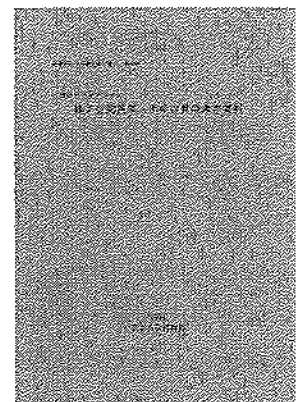
昨年度事業として、当館の主たる収蔵・展示資料の一つである吉田格コレクションのうち、城ノ台北貝塚及び子母口貝塚について、縄文時代研究者である金子直行氏と上野真由美氏の協力により資料整理を実施し、その報告書を刊行しました。

B5判 100頁 カラー

『立正大学博物館年報19』

令和2年度の博物館の事業等を報告した年報を令和3年6月に刊行しました。

B5版 48頁、モノクロ



『立正大学博物館年報19』と『吉田格コレクション 城ノ台北貝塚・子母口貝塚考古資料』

運営委員会

立正大学博物館運営委員

- 第1号委員 時枝 務 (博物館長)
- 第2号委員 足立 佳代 (学芸員)
- 第3号委員 板野 晴子 (社会福祉学部長)
- 第3号委員 鈴木 厚志 (地球環境科学部長)
- 第4号委員 川真田 嘉壽子 (法制研究所長)
- 第4号委員 村尾 泰弘 (社会福祉研究所長)
- 第5号委員 久保 真紀子 (博物館関係学識経験者)
- 第6号委員 石山 秀和 (文化史関係学識経験者)
- 第7号委員 島津 弘 (自然史関係学識経験者)

\*敬称略

令和3年度第1回博物館運営委員会

日時：7月29日～8月20日 メール審議

I. 報告事項

- 1. 令和3年度博物館運営委員について
- 2. 令和2年度事業報告・決算報告について
- 3. その他

II. 審議事項

- 1. 令和3年度事業計画について
- 2. 令和3年度予算について
- 3. その他

\*審議事項は全て可決されたほか、委員からはさまざまな意見が寄せられました。

利用案内

所在地：〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700

立正大学熊谷キャンパス内

TEL 048 - 536 - 6150

FAX 048 - 536 - 6170

開館日：月・水・木・金 (大学休業中を除く)

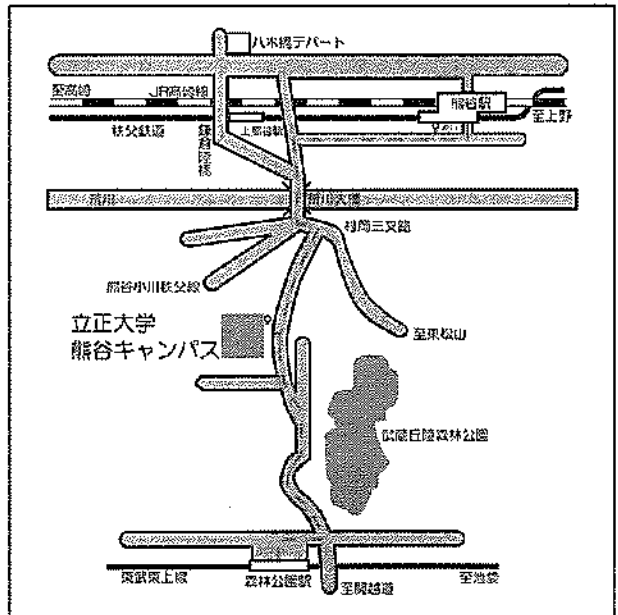
開館時間：10:00～16:00

※詳細につきましては、博物館ホームページをご覧ください。

交通機関：

- ① JR 高崎線、北陸新幹線、秩父鉄道「熊谷駅」下車  
南口より立正大学行バス(国際十王交通)で約10分。
- ② 東武東上線「森林公園駅」下車。北口より立正大学行バス(国際十王交通)で約12分。

お問い合わせ：博物館または熊谷総務部総務課  
(048-536-6010)にご連絡下さい。



あとがき

コロナ禍が続いていますが、今年度は4月から開館し、企画展も開催できることとなりました。

7月25日(日)には、来校型のオープンキャンパスも実施され、高校生やその保護者の方々が来館されました。

12月には品川キャンパスのロータスギャラリー特別展示室の開館記念特別展、熊谷図書館での発掘出土品展などに当館の資料が展示されます。どうぞみなさま秋の博物館をお楽しみください。(足立)

立正大学博物館館報 万吉だより 第33号

令和3(2021)年10月30日発行

編集・発行 立正大学博物館

〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700

TEL 048 - 536 - 6150

FAX 048 - 536 - 6170

E-mail : museum@ris.ac.jp

URL : https://www.ris.ac.jp/museum/

題字揮毫 田淵親斎 (立正大学名誉教授)

(印刷：アサヒコミュニケーションズ)